

### 30 自分の意志を上手く相手に伝えることができない自閉症児に対しての、VOCAやカードを使用した、要求伝達手段の獲得に対する支援

秩父学園指導課 徳山 博之、高木 晶子、佐山 智洋、桧上 耕祐、金森 孝之

#### 1、はじめに

Aさんは当学園入所以前から、外出先でトイレに行きたいが要求できずに失禁してしまうなど、自らの要求を適切な手段を用いて伝達することができなかつた。唯一、Aさんの伝達手段としてクレーン行動があるが、実際その場に援助者を連れてきてもその後の「何がしたいのか」という点は伝えることができず、結局あきらめざるを得ない状況になってしまっていた。そこで、発信(相手に気付いてもらう)→要求という、要求するために必要な一連の流れを身につけてもらうことや、自分の意志を相手に分かる形で伝えてもらうことに重点を置いて支援した。その結果、VOCA (Voice Output Communication Aids) やカードなどを使用して、自分の要求を一部伝えられるようになってきたので報告する。

#### 2、対象者のプロフィール

氏名：Aさん(13歳) 診断名：自閉症、知的障害 服薬状況：服薬なし 発達検査：PEP-R (H. 20. 11. 27実施) 発達年齢 1歳11ヶ月 芽生え年齢 2歳7ヶ月 コミュニケーション：【表出性】発語はあるが、1語文程度で、要求はクレーンで伝えることが多い。苦手な食べ物も拒否できず、無理に食べてしまうことがある。【受容性】日常生活で使う簡単な言語を理解し、行動することができる。

#### 3、支援経過(平成20年度～22年度までの、取り組みの経過)

・20年度：【VOCAを使用しおかわり要求をする。】まず要求を伝える前に、相手に気付いてもらうという部分に焦点をあてた。食事場面に、机の上にVOCAを設置し、VOCAには目印を付けるなど設定にも配慮した。導入当初は直接援助など介助度を高くしながら進めた。 ・21年度：【VOCAとカードを使用しおかわり要求をする。】VOCA自体を新しいものに変更し、机にカードスペースを設け、ご飯の写真が付いたカードを設置した。VOCAを押し、職員にカードを渡す、という流れで支援を行った。評価後、スプーンカードを増やして支援を続行した。【二者択一でおやつを選択する。】何かを選択する、ということにおいても難しい部分があったので、選択場面を設定した。おやつ時に、二種類のお菓子を用意し、そのどちらかを選択してもらった。どちらか一方を選択後、他のお菓子はすぐに下げるようにした。 ・22年度：【カードを利用して洗濯機を使用することができる。】20年、21年と「発信する」ことをメインに支援を行ってきたが、22年は「受容する」という部分においても同時に支援していった。支援カードを手持ちのスケジュールボードに設置し、そのカードのスケジュールに沿って活動できるように環境設定した。

#### 4、支援結果

・20年度～21年度：自分の好みの料理の時しかVOCAを押さずにお代わりしないなど、VOCAやカードを使用への理解が進んだ。二者択一でも、好みのお菓子を選択していた。 ・22年度：導入時にも、カードを良く見て活動していた。介助を多くすることで混乱も少なく、活動できていた。

#### 5、考察

VOCAを使用する事で、ボタンを押せば職員が来て要求に応じてくれるということや、カードを使用する事で、「要求したい具体的な内容が何なのか?」という部分で、職員と共通認識を持てるようになってきた。この方法なら新しく始める活動にも活かせる、というモデルを作る事ができた。